

【用意するもの】

①段ボール箱

縦 40 ㌢×横 45 ㌢×高さ 30 ㌢程度のしっかりしたもの（※虫よけのためのフタ用と箱の底を二重に補強するためのダンボールも準備）。

②資材（ホームセンター、園芸ショップなどで販売）

①ピートモス

（土壌改良材：15 ㌢入りで 500 円 程度）

②くん炭（土壌改良資材：15 ㌢入りで 500 円程度）

③箱底の通気性を良くするためレンガや角材、ビールケースなど（段ボールコンポストの台）。

④その他

①紙製ガムテープ（通気性を良くするため）

②木べら（段ボール内をかき混ぜるため）

③温度計（生ごみ分解温度の確認）



頑丈な段ボール箱を準備



資材のピートモス（右）とくん炭（左）



段ボールのすべての角をガムテープで補強



底は強度を上げるため二重に段ボールを敷く

二重底

【容器の作りかたと生ごみ堆肥の作りかた】

①段ボールのすべての角をガムテープで内、外側から補強。

②虫の侵入を防ぐため、ガムテープで底部の隙間を埋める。

③箱底の強度を上げるため、本体の内寸にあわせて切った段ボールを二重に敷く。

④段ボールでふたを作り、本体と同じようにすべての角をガムテープで補強（段ボールのふたの代わりに、古くなったバスタオル、Tシャツなどでも代用可）。

⑤容器の分量は「ピートモス」3 に対し「くん炭」を 2 の割合で配合し良く混ぜる。

⑥水分を軽く切った生ごみを投入。（最初は基材に水分がないので 2 日間程度は生ごみを多めに入れる。なお小さいほうが分解が早まるが、生ごみの分解はすぐに始まらないため 1 週間ほどは様子を見る。以後は 1 日につきおおよそ 500 ㌢～1 ㌢を目安に 3 カ月ほど投入）。

⑦防臭、防虫、保温のため必ずふたをかぶせる。

⑧生ごみを入れなくても毎日木べらなどで良くかき混ぜ空気を入れる。ゴミを分解する微生物の活動が活発になり、虫の発生も抑制。

【段ボールコンポストに入れて良いもの】

○野菜くず、食べ残し、お菓子、肉、魚のあら（加熱したもの）、くだものなど。



資材はこの線まで

基材は段ボールの折れ目付近まで



基材を入れた状態

【使用期間】

○1 日平均 500 ㌢の場合 3～4 カ月（おおよそ 50 ㌢程度の処理）で段ボールコンポストは寿命になります。資材に粘り気や多くの塊、サラサラ感がなくなれば寿命です。生ごみの投入はやめて 1～2 週間時折かき混ぜます。その後、土と混ぜ（1：1）さらに 1～2 カ月間ねかせると堆肥になります（半年くらいねかせるのがベストです）。○新しい段ボールコンポストに替える場合は、前の基材を少し混ぜると早く分解が始まります。



生ごみを混ぜるときは、生ごみが段ボールに直接触れないよう注意

◎問い合わせ先

役場保健衛生課環境衛生係
☎ (86) 1111 [内線 1107]

段ボールコンポストで生ごみ処理に挑戦

町では、ごみの減量化とリサイクル推進のため、段ボールコンポストによる生ごみ処理を紹介します。段ボールコンポストとは、段ボール箱を

利用して生ごみを処理し堆肥化する容器のことです。町民のみなさん、ぜひ一度挑戦してください。